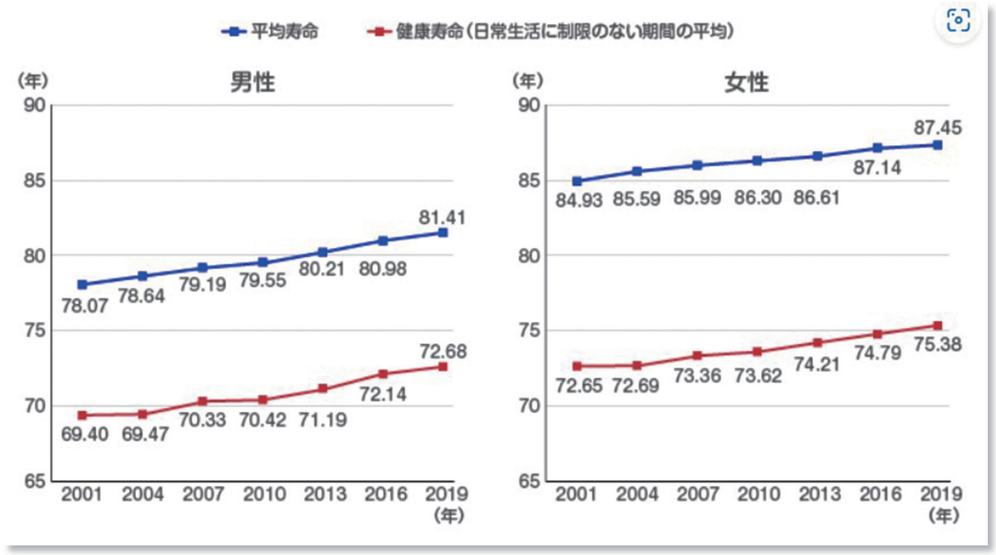
● 健康寿命は10歳低い

WHOは、寝たきりや認知症にならずに自立して生活している期間のことを「健康寿命」と定義し、健康寿命を伸ばすことが重要だとしています。

日本人の寿命は女性が87歳、男性が81歳ですが、健康寿命は女性が75歳、男性が72歳。つまり10年間前後は医療や介護の助けがなければ、自分の命や健康を維持できない人が多いのが現状です。



● 2040年には介護職員が約69万人不足する

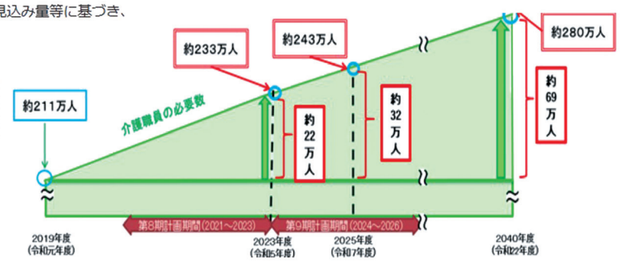
高齢化社会で「最後までその人らしく」生きるためには、日常生活をサポートしてくれる介護職の人が不可欠です。ところがここに気になるグラフがあります。厚生労働省によると2040年度には介護職の人が約280万人必要であると予想されているのに対し、そのうちの約69万人が不足するとされています。つまりこのままだと、必要な介護者数のおよそ1/4が足りません。

第８期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について

令和3年7月9日に第8期介護保険事業計画の介護サービス見込み量等に基づき、都道府県が推計した介護職員の必要数を公表しました。

これによれば、
・2023年度には約２３３万人（+約２２万人（5.5万人/年））
・2025年度には約２４３万人（+約３２万人（5.3万人/年））
・2040年度には約２８０万人（+約６９万人（3.3万人/年））

※（）内は2019年度（211万人）比の介護職員を確保する必要があると推計されています。



（「第8期介護保険事業計画に基づく介護人材の必要数について（令和3年7月9日）」別紙１より）

● 介護の仕事の魅力って何？

介護職の魅力の１つは「人の幸せに直結している」ということです。例えば認知症を患い、表情もほとんど変化しなくなっていった人が、適切な介護によって笑顔を取り戻すこともあります。

自分で食事することが出来なかった人がスプーンを持てるようになったり、寝たきりの状態から座ることができるようになったり…本人や家族が諦めていたことが、介護者の知識や工夫によって「できるように」なることが多々あります。その結果、本人も家族も心の余裕が生まれて笑顔を取り戻し、幸福感を感じながら日々を過ごすことができるようになります。そういう大きな可能性のある仕事です。

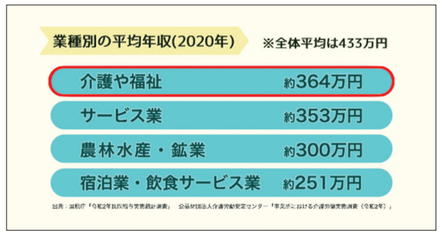
介護職に対するマイナスイメージ

イメージ1 仕事がきつい、汚い？

現状：介護技術が進歩してきた結果、どのような人にどのようなサービスを提供すればいいか、きちんとわかってきました。介護保険制度が始まったばかりの頃に比べると、介護者の仕事内容は洗練され、無駄に動き回るようなこともなくなりました。また、人の動線に配慮された衛生的な介護施設が数多く建設され、職場環境も格段に改善されています。

イメージ2 給料が安い？

現状：2020年の調査による「業種別の平均年収」では、介護・福祉は約364万円となっています。宿泊業・飲食サービス業が約251万円、サービス業が約353万円という数字であることから、介護職の給与がイメージほど悪くないことがわかります。



イメージ3 休みが少ない、長時間労働

現状：確かに以前は休みの少ないイメージがありました。しかし介護職の労働環境を改善するため、厚生労働省が指針を出すなど働きかけを行った結果、法律に則って年間の取得休日数や実働時間を決定するサービス事業者が増えています。

進化する介護の現場

ロボットが介護をサポート

排尿を感知するセンサー

タブレット端末による情報共有（利用者の体温や食事量、健康状態などをその場でタブレット端末に入力。全スタッフが瞬時に情報を共有できる）、センサー類による生活パターンの把握（排せつなどの生活パターンを記録して、おむつが濡れる前にトイレに誘導する等）、力仕事が必要な場面で介護者をサポートするパワーアシストスーツなど、介護の現場を支えるさまざまな技術が導入されています。